

受 理 報 告

区 分	対 象 事 業 名 称	受 理 年 月 日
1 事後調査報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)目黒駅前地区第一種市街地再開発事業(工事の施行中その2) ・紀尾井町南地区開発事業(工事の施行中その3) ・東北縦貫線(東京駅～上野駅間)整備事業(工事の完了後) ・中野西土地地区画整理事業(工事の施行中その1) ・西東京都市計画道路3・2・6号調布保谷線(西東京市東伏見～北野間)建設事業(工事の施行中その13) ・杉並清掃工場建替事業(工事の施行中その4) ・首都圏中央連絡道路(神奈川県境～一般国道20号間)建設事業(工事の完了後その1) 	(別紙のとおり)
2 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田南土地地区画整理事業 ・都市高速鉄道東京臨海新交通臨海線(新橋～竹芝ふ頭間)及び都市計画道路補助313号線建設事業 ・立川基地跡地昭島地区土地地区画整理事業 ・株式会社 村尾組 成木工場採石拡張事業 ・一般国道16号(昭島市拝島町～福生市熊川町間)拡幅事業 ・八王子市都市計画道路3・3・2号線(八王子市北野町～南浅川町)建設事業 ・宇津木土地地区画整理事業 ・是政橋及び関連道路事業 ・都営桐ヶ丘団地(第4期・第5期)建替事業 ・白金一丁目東部北地区第一種市街地再開発事業 ・新可燃ごみ処理施設整備事業 	(別紙のとおり)
3 完 了 届	<ul style="list-style-type: none"> ・京浜急行電鉄本線(平和島駅～六郷土手駅間)及び空港線(京急蒲田駅～大鳥居駅間)の連続立体交差化事業 ・京成電鉄押上線(押上駅～八広駅間)立体交差事業 	平成29年3月31日 平成29年3月31日

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	(仮称) 目黒駅前地区第一種市街地再開発事業		
番号・答申日・受理日	1-276-2	H22. 7. 23	H29. 3. 29
事 業 の 種 類	高層建築物の新築		
規 模	計 画 地：品川区上大崎三丁目 敷 地 面 積：約 1.7ha 延 床 面 積：約 170,600 m ² 最高建物高さ：約 145m (地上 40 階、地下 2 階) 主 要 用 途：業務施設・商業施設・共同住宅・駐車場等 住 宅 戸 数：約 945 戸 駐 車 場 台 数：約 515 台 工事予定期間：平成 25 年度～平成 29 年度 供用開始予定：平成 29 年度		
事後調査の区分	工事の施行中その 2		
調査項目・事項	大気汚染、騒音・振動、地盤、水循環、廃棄物		
調査結果の内容	<p>1 大気汚染</p> <p>(1) 建設機械の稼働に伴う大気質 二酸化窒素の期間 (7 日間) 平均値 (0.022ppm) は、予測結果 (0.04427ppm) を下回った。日平均値の最高値 (0.030ppm) は、予測結果 (日平均値の年間 98%値 0.07001ppm) を下回っており、参考比較した環境基準 (0.04 から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下) を満足していた。 浮遊粒子状物質の期間 (7 日間) 平均値 (0.024mg/m³) は、予測結果 (0.038mg/m³) を下回った。日平均値の最高値 (0.037mg/m³) は、予測結果 (日平均値の年間 2%除外値 0.08351mg/m³) を下回っており、参考比較した環境基準 (0.10mg/m³以下) を満足していた。</p> <p>(2) 工事用車両の走行に伴う大気質 二酸化窒素の期間 (7 日間) 平均値 (0.017～0.022ppm) は、全ての地点で予測結果 (0.03143～0.03682ppm) を下回った。日平均値の最高値 (0.024～0.030ppm) は、予測結果 (日平均値の年間 98%値 0.05391～0.06066ppm) を下回っており、参考比較した環境基準を満足していた。 浮遊粒子状物質の期間 (7 日間) 平均値 (0.012mg/m³) は、予測結果 (0.03207mg/m³) を下回った。日平均値の最高値 (0.020mg/m³) は、予測結果 (日平均値の年間 2%除外値 0.07301mg/m³) を下回っており、参考比較した環境基準を満足していた。</p> <p>2 騒音・振動</p> <p>(1) 建設機械の稼働に伴う騒音及び振動 建設作業騒音レベル (L_{A5}) の事後調査結果 (66～73dB) は、予測結果 (67dB) を一部の時間帯で上回ったが、全ての地点で環境確保条例に基づく勧告基準 (80dB 以下) を下回った。 予測結果を上回った理由として、建設機械の稼働台数削減に伴い配置を見直した結果、クローラクレーンが予測時と比較して敷地境界に近づいたことが考えられる。 建設作業振動レベル (L₁₀) の事後調査結果 (44～48dB) は、予測結果 (63dB) を下回り、全ての地点で環境確保条例に基づく勧告基準 (70dB 以下) を下回った。</p>		

事 項	内 容																																																										
調査結果の内容	<p>(2) 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音及び振動 道路交通騒音レベル (L_{Aeq}) の事後調査結果 (65~73dB) は、予測結果 (67~72dB) と同程度又は下回り、環境基準 (65~70dB 以下) を2地点で上回った。 道路交通振動レベル (L_{10}) の事後調査結果 (41~51dB) は、予測結果 (44~50dB) と同程度又は下回り、全ての地点で環境確保条例に基づく規制基準 (60~65dB 以下) を下回った。</p> <p>3 地盤 (地盤の変形の範囲及び変形の程度) 事後調査期間中における各調査地点における地盤高の変動量はわずかであり、また、著しい地下水の低下も認められなかったことから、掘削工事に伴う著しい地盤変形及び地盤沈下は無いものと考えられる。</p> <p>4 水循環 (地下水の水位、流況の変化の程度) 事後調査期間中における地下水位の状況は、第1帯水層、第2帯水層ともに降雨の応答性は見られるものの変動は緩やかであり、著しい地下水の低下は認められなかったことから、掘削工事に伴う著しい地下水位の低下は無いものと考えられる。</p> <p>5 廃棄物 (1) 建設工事に伴う廃棄物排出量 (予測結果は工事の終了時まで)</p> <table border="1" data-bbox="454 1037 1444 1599"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th>予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>排出量 (t)</th> <th>排出量 (t)</th> <th>再資源化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td>1,469</td> <td>6,262.5</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>アスファルト・コンクリート塊</td> <td>416</td> <td>10.7</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック類</td> <td>230</td> <td>295.6</td> <td>約 92%</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>564</td> <td>430.3</td> <td>約 98%</td> </tr> <tr> <td>ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず</td> <td>521</td> <td>78.1</td> <td>約 63%</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>59</td> <td>989.7</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>紙くず (ダンボール)</td> <td>175</td> <td>42.3</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>混合廃棄物</td> <td>1,505</td> <td>200.2</td> <td>約 88%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>4,939</td> <td>8,309.4</td> <td>約 99%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 土壌の掘削に伴う建設発生土の排出量、建設汚泥の排出量 (予測結果は工事の終了時まで)</p> <table border="1" data-bbox="486 1697 1417 1895"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th>予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>排出量 (m^3)</th> <th>排出量 (m^3)</th> <th>再利用率及び再資源化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設発生土</td> <td>約 205,900</td> <td>166,089</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>建設汚泥</td> <td>65,862</td> <td>23,077</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	種 類	予測結果	事後調査結果		排出量 (t)	排出量 (t)	再資源化率	コンクリート塊	1,469	6,262.5	100%	アスファルト・コンクリート塊	416	10.7	100%	廃プラスチック類	230	295.6	約 92%	木くず	564	430.3	約 98%	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	521	78.1	約 63%	金属くず	59	989.7	100%	紙くず (ダンボール)	175	42.3	100%	混合廃棄物	1,505	200.2	約 88%	合 計	4,939	8,309.4	約 99%	種 類	予測結果	事後調査結果		排出量 (m^3)	排出量 (m^3)	再利用率及び再資源化率	建設発生土	約 205,900	166,089	100%	建設汚泥	65,862	23,077	100%
	種 類		予測結果	事後調査結果																																																							
排出量 (t)		排出量 (t)	再資源化率																																																								
コンクリート塊	1,469	6,262.5	100%																																																								
アスファルト・コンクリート塊	416	10.7	100%																																																								
廃プラスチック類	230	295.6	約 92%																																																								
木くず	564	430.3	約 98%																																																								
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	521	78.1	約 63%																																																								
金属くず	59	989.7	100%																																																								
紙くず (ダンボール)	175	42.3	100%																																																								
混合廃棄物	1,505	200.2	約 88%																																																								
合 計	4,939	8,309.4	約 99%																																																								
種 類	予測結果	事後調査結果																																																									
	排出量 (m^3)	排出量 (m^3)	再利用率及び再資源化率																																																								
建設発生土	約 205,900	166,089	100%																																																								
建設汚泥	65,862	23,077	100%																																																								
苦情の有無	<p>騒音に関するものが4件あったが、2件については一時的な作業であることを住民の方に説明をすることで理解を得た。残りの2件は、場内車両の走行音や安全指示 (笛) 音についてであり、工事用車両の場内速度を抑えること、安全指示を行う場所の変更等を行うことにより、その後同様の苦情は発生していない。</p>																																																										

事後調査報告書

事項	内容																																																																											
事業名	紀尾井町南地区開発事業																																																																											
番号・答申日・受理日	1-281-1	H24. 3. 26	H29. 3. 29																																																																									
事業の種類	高層建築物の新築																																																																											
規模	計画地：千代田区紀尾井町1番地の一部 敷地面積：約30,300㎡ 延床面積：約227,000㎡ 建築面積：約11,000㎡ 最高高さ：約180m 主要用途：オフィス、ホテル、住宅(最大約140戸)、店舗、駐車場等 駐車場台数：約470台 工事期間：平成24年度～平成28年度 供用開始：平成28年度																																																																											
事後調査の区分	工事の施行中その3																																																																											
調査項目・事項	地盤、水循環、自然との触れ合い活動の場、廃棄物																																																																											
調査結果の内容	<p>1 地盤</p> <p>(1) 山留壁等の変形による地盤の変形 地下工事期間中の地盤の変動量は洪積台地部、地盤沈下が懸念される軟弱地盤の分布する沖積低地部ともわずかであったことから、山留壁等の変形による地盤の著しい変形は生じていないものとする。</p> <p>(2) 掘削工事に伴う地下水の揚水による地盤の変形 地盤掘削中のディープウェルの稼働に伴い、地下水位に一時的な低下が生じたが、リチャージウェル等により水位低下は抑制され、地下水の揚水による地盤の著しい変形は生じていないものとする。</p> <p>2 水循環（掘削工事等に伴う地下水の揚水による地下水の水位の変化の程度） 地盤掘削中のディープウェルの稼働に伴い、地下水位に一時的な低下が生じたが、リチャージウェル等により水位低下は抑制された。さらにディープウェルの稼働の停止とともに、地下水位はおおむね工事開始前の地下水位まで回復し、周辺地下水位への著しい影響は生じていないものとする。</p> <p>3 自然との触れ合い活動の場（利用経路に与える影響の程度） 事後調査の結果、交通整理員が配置され工事用車両の出入りに関して適切な誘導が行われていることに加え、仮囲いによって計画地（工事現場）と外部が仕切られていることによって経路の利用に支障はなく、自然との触れ合い活動の場までの利用経路に著しい影響は及ぼしていないことが確認された。</p> <p>4 廃棄物（建設工事等に伴い生じる廃棄物の発生量） (予測結果は工事の終了時まで)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">廃棄物の種類</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">予測結果</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>今回調査結果</th> <th>累計</th> <th>再資源化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td>t</td> <td>約1,636</td> <td>約2,318</td> <td>約11,386</td> <td>約99%</td> </tr> <tr> <td>アスコン塊</td> <td>t</td> <td>約325</td> <td>約1,680</td> <td>約1,855</td> <td>約100%</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>t</td> <td>約582</td> <td>約459</td> <td>約1,345</td> <td>約100%</td> </tr> <tr> <td>ガラス陶磁器</td> <td>t</td> <td>約325</td> <td>約774</td> <td>約1,038</td> <td>約47%</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック</td> <td>t</td> <td>約307</td> <td>約312</td> <td>約534</td> <td>約68%</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>t</td> <td>約374</td> <td>0</td> <td>約18</td> <td>約100%</td> </tr> <tr> <td>紙くず</td> <td>t</td> <td>約257</td> <td>約145</td> <td>約187</td> <td>約100%</td> </tr> <tr> <td>石膏ボード</td> <td>t</td> <td>約423</td> <td>約69</td> <td>約73</td> <td>約71%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>がれき類</td> <td rowspan="2">約564</td> <td>約342</td> <td rowspan="2">約4,043</td> <td rowspan="2">約81%</td> </tr> <tr> <td>その他(可燃物等)</td> <td>0</td> <td>約36</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>混合廃棄物</td> <td>t</td> <td>約1,336</td> <td>約369</td> <td>約594</td> <td>約99%</td> </tr> </tbody> </table>			廃棄物の種類	単位	予測結果	事後調査結果			今回調査結果	累計	再資源化率	コンクリート塊	t	約1,636	約2,318	約11,386	約99%	アスコン塊	t	約325	約1,680	約1,855	約100%	木くず	t	約582	約459	約1,345	約100%	ガラス陶磁器	t	約325	約774	約1,038	約47%	廃プラスチック	t	約307	約312	約534	約68%	金属くず	t	約374	0	約18	約100%	紙くず	t	約257	約145	約187	約100%	石膏ボード	t	約423	約69	約73	約71%	その他	がれき類	約564	約342	約4,043	約81%	その他(可燃物等)	0	約36	—	混合廃棄物	t	約1,336	約369	約594	約99%
廃棄物の種類	単位	予測結果	事後調査結果																																																																									
			今回調査結果	累計	再資源化率																																																																							
コンクリート塊	t	約1,636	約2,318	約11,386	約99%																																																																							
アスコン塊	t	約325	約1,680	約1,855	約100%																																																																							
木くず	t	約582	約459	約1,345	約100%																																																																							
ガラス陶磁器	t	約325	約774	約1,038	約47%																																																																							
廃プラスチック	t	約307	約312	約534	約68%																																																																							
金属くず	t	約374	0	約18	約100%																																																																							
紙くず	t	約257	約145	約187	約100%																																																																							
石膏ボード	t	約423	約69	約73	約71%																																																																							
その他	がれき類	約564	約342	約4,043	約81%																																																																							
	その他(可燃物等)		0			約36	—																																																																					
混合廃棄物	t	約1,336	約369	約594	約99%																																																																							
苦情の有無	無																																																																											

事後調査報告書

事 項	内 容		
事業名	東北縦貫線（東京駅～上野駅間）整備事業		
番号・答申日・受理日	1-251-2	H19. 6. 27	H29. 3. 30
事業の種類	鉄道の改良		
規 模	事業区間：千代田区丸の内一丁目～台東区上野七丁目 事業延長：約 3.8km 構造形式：高架式 対象駅（停車駅）：東京駅、上野駅 工事期間：平成 20 年度～平成 26 年度 供用開始：平成 27 年 3 月		
事後調査の区分	工事の完了後		
調査項目・事項	騒音・振動、日影、電波障害、景観		
調査結果の内容	<p>1 騒音・振動</p> <p>(1) 列車の走行に伴う鉄道騒音 (L_{Aeq}) 最寄軌道中心から 12.5m 地点の地上 1.2m の事後調査結果（昼間 60～67dB、夜間 53～62dB）は、3 地点で予測結果（昼間 58～70dB、夜間 54～65dB）を上回り、残りの地点では同程度又は下回った。また、1 地点の昼間を除き、全ての地点において評価書現況値（昼間 60～70dB、夜間 55～60dB）と同程度又は下回った。一部の地点で予測結果又は評価書現況値を上回った理由は、測定地点が分岐器設置区間でありその影響を受けたこと等が考えられる。 高さ方向の事後調査結果（昼間 62～78dB、夜間 56～73dB）は、4 地点の一部の高さにおいて、予測結果（昼間 59～79dB、夜間 53～74dB）を上回り、残りの地点では同程度又は下回った。また、1 地点の一部の高さを除き、全ての地点において評価書現況値（昼間 60～79dB、夜間 55～74dB）を下回った。一部の高さで予測結果又は評価書現況値を上回った理由は、測定地点が分岐器設置区間でありその影響を受けたこと等が考えられる。 なお、評価書現況値を超えた調査地点近傍の分岐器等の影響が小さい箇所を追加調査を行った結果、評価書現況値を下回った。</p> <p>(2) 列車の走行に伴う鉄道振動 (L_{max}) 最寄軌道中心から 12.5m 地点の事後調査結果（38～51dB）は、3 地点で予測結果（34～54dB）を上回り、残りの地点では同程度又は下回った。また、1 地点を除き、全ての地点において評価書現況値（35～51dB）と同程度又は下回った。一部の地点で予測結果又は評価書現況値を上回った理由は、事業区間周辺で建築物が建設されたことにより伝搬状況が変化したこと、分岐器の影響等が考えられる。 なお、全ての地点において人が振動を感じ始める感覚閾値（55dB）を下回った。</p> <p>2 日影</p> <p>(1) 冬至日における日影の範囲、日影となる時刻及び時間数の変化の程度 事後調査結果の時刻別日影線及び等時間日影線は、いずれの地点も予測結果とおおむね同様であった。</p> <p>(2) 日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における冬至日の日影となる時刻及び時間数の変化の程度 同仁記念会明和病院に対する日影の状況は、同病院と東北縦貫線の間には複数の建物があることにより、事業による日影の状況を確認できなかったが、複数の建物がない場合でも、日影の影響は予測結果とおおむね同程度であった。</p>		

事 項	内 容
	<p>3 電波障害</p> <p>(1) 鉄道施設によるテレビ電波の遮へい障害及び反射障害 全ての調査地点において画像評価及び品質評価は正常又は良好であることから、鉄道施設による影響は少ないものと考えられる。</p> <p>(2) 列車の走行によるパルス障害及びフラッター障害 電車の通過時においてパルス障害及びフラッター障害は確認されなかったことから、列車の走行による影響は少ないものと考えられる。</p> <p>4 景観</p> <p>(1) 地域景観の特性の変化 重層部は新幹線の構造物の上に東北縦貫線の構造物ができたため、一部景観が変化したが、事業区間周辺の都市的景観要素と融合しており、地域景観の特性はほとんど変化していないものと考えられる。</p> <p>(2) 代表的な眺望地点からの眺望の変化 鉄道施設の背後に高層建築物が建設された又は建て替えられたことによる違いはあるが、ほとんどの眺望地点において予測結果と大きな違いは見られなかった。</p> <p>(3) 圧迫感の変化 構造物高さは予測条件と変わっていないため、仰角は全ての地点において予測結果とおおむね同程度であった。また、圧迫感の変化をできる限り少なくするため、防音壁に透光板を採用するなど環境保全のための措置を実施した。</p>
<p>苦 情 の 有 無</p>	<p>鉄道騒音に関する苦情が4件あった。レール継ぎ目の解消、高架橋スラブ下に吸音材の設置、防音壁の部材の一部をFRP化する等の対策工事を行い騒音低減に努めた結果、理解を得た。その他、縦貫線の構造物ができたことにより、反射音がうるさくなったとの苦情がある。</p>

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	中野西土地区画整理事業		
番号・答申・受理日	1-158-2	H22. 1. 19	H29. 3. 31
事 業 の 種 類	土地区画整理事業		
規 模	<p>所 在 地：八王子市中野上町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目及び中野山王一丁目、暁町一丁目の各一部</p> <p>施 行 面 積：約 54. 59ha</p> <p>地 域 区 域：準工業地域、近隣商業地域</p> <p>事 業 方 式：土地区画整理事業（公共団体施行）</p> <p>施 行 者：八王子市</p> <p>計 画 人 口：約 5, 500 人（約 100 人／ha）</p> <p>施 行 期 間：平成 10 年度～平成 41 年度（予定）</p>		
事後調査の区分	工事の施行中その 1		
調査項目・事項	水質汚濁		
調査結果の内容	<p>1 水質汚濁（浮遊物質（SS））</p> <p>計画区域内水路の浮遊物質（SS）は 34～39mg/L（降雨時）、3mg/L（平常時）であり、川口川（上流、下流）の浮遊物質（SS）は 51～190mg/L（降雨時）、1～4mg/L（平常時）であった。</p> <p>計画区域内水路における浮遊物質（SS）の増加量（降雨時）は、雨水排水の排水先である川口川における浮遊物質（SS）の増加量（降雨時）よりも小さい。さらに、降雨時の計画区域内水路の浮遊物質（SS）は、降雨時の川口川の浮遊物質（SS）よりも小さく、また、計画区域内水路の流量も川口川の流量と比べてわずかであることから、川口川の浮遊物質（SS）を増加させていないものと考えられる。</p>		
苦情の有無	無		

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	西東京都市計画道路3・2・6号調布保谷線 (西東京市東伏見～北町間) 建設事業		
番号・答申日・受理日	2-175-2	H10.10.30	H29.3.29
事 業 の 種 類	道路の改築		
規 模	延 長：約3.9km 起 点：西東京市東伏見六丁目 終 点：西東京市北町三丁目 車 線 数：本線4車線 道路構造：一般部 約2.79km、掘割部 約0.55km トンネル部 約0.54km、橋梁部 約0.03km 工事期間：平成15年度～平成29年度(予定) 供用開始：平成30年度(予定)		
事後調査の区分	工事の施行中その13		
調査項目・事項	騒音、振動		
調査結果の内容	<p>1 騒音（建設機械の稼働に伴う騒音） 建設作業騒音レベル（L_{A5}）の事後調査結果は、「土工／掘削」が74dB（予測結果70dB）、「街築工／街きよ等の設置」が76dB（予測結果80dB）、「舗装工 路床・路盤工／敷き均し、転圧」が77dB（予測結果73～76dB）であり「土工／掘削」が予測を上回った。「土工／掘削」が予測を上回った理由は、一連の作業として発生土の積込みを行ったことが考えられる。 全ての工種において環境確保条例に基づく勧告基準（80dB以下）を下回った。</p> <p>2 振動（建設機械の稼働に伴う振動レベル） 建設作業騒音レベル（L_{10}）の事後調査結果は、「土工／掘削」が60dB（予測結果59dB）、「舗装工 路床・路盤工／敷き均し、転圧」が61dB（予測結果65dB）であり、予測と同程度か下回り、全ての工種において環境確保条例に基づく勧告基準（70dB以下）」を下回った。</p>		
苦 情 の 有 無	無		

事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	杉並清掃工場建替事業		
番号・答申日・受理日	2-280-1	H23.10.26	H29.3.30
事 業 の 種 類	廃棄物処理施設の設置		
規 模	所 在 地：杉並区高井戸東三丁目7番6号 敷地面積：約33,000㎡ 処理能力：可燃ごみ 焼却炉600t/日（300t/日・炉×2基） 工場稼働年度：平成29年度（予定）		
事後調査の区分	工事の施行中その4		
調査項目・事項	大気汚染、騒音・振動、土壌汚染、地盤、水循環、廃棄物		
調査結果の内容	<p>1 大気汚染（建設機械の稼働に伴う排気ガスによる大気質） 浮遊粒子状物質の期間平均値（7日間）は、0.014～0.018mg/m³で予測結果（0.026～0.028mg/m³）を全ての地点で下回った。また、1日平均値の最大値は、0.020～0.030mg/m³であり、参考に比較すると環境基準（1日平均値0.10mg/m³）を下回っている。 二酸化窒素の期間平均値（7日間）は、0.028～0.035ppmで予測結果（0.042ppm）を全ての地点で下回った。また、1日平均値の最大値は、0.039～0.054ppmで、参考に比較すると、環境基準（1日平均値0.04～0.06ppm）を下回っていた。</p> <p>2 騒音・振動（建設機械の稼働に伴う騒音・振動レベル） く体・プラント工事時における騒音レベル（L_{A5}）の調査結果は、55～72dBで、予測結果（55～80dB）及び環境確保条例に基づく勧告基準（80dB）を全ての地点で下回った。 く体・プラント工事時の振動レベル（L₁₀）の調査結果は、30～40dBで予測結果（26～43dB）をB地点（東側）で上回ったが、他地点は予測結果を下回った。なお、全ての地点で環境確保条例に基づく勧告基準（70dB）を下回った。 B地点で予測を上回った理由は、測定結果はく30～34dBであり、評価書時の環境振動（37～43dB）を下回る値であるため、工事による影響はほとんどなかったと考えられる。</p> <p>3 土壌汚染 解体工事前及び工場等地下部掘削前に行った土壌汚染状況調査により汚染土壌処理基準等を超過していると認められた区画について、汚染の除去や拡散防止等、関係法令に基づき適切な処理を講じたうえ、汚染土壌を計画地外に搬出した。また、汚染土壌の掘削・搬出の際は、東京都土壌汚染対策指針に基づき汚染拡散防止措置を適切に講じて処理した。</p>		

事 項	内 容																																																																																														
	<p>4 地盤、水循環 (地下構造物の存在による地下水位及び流況の変化の程度、地盤沈下の範囲及び程度)</p> <p>平成 28 年 4 月から平成 28 年 9 月までの各観測井の地下水位は、冬季及び春季において、一時的に低下しているものの、夏季の降雨の時期に再び地下水位が上昇していることから地下水位の変動は主に降水量によるものとする。</p> <p>また、地下水の流況については、敷地境界の四隅に位置する各観測井の地下水位はおおよそ同様の変動を示していることから、地下水は山留壁で囲んだ外側を迂回して流れていると想定され、地下水の流況並びに地盤沈下への影響は少ないと考える。</p> <p>5 廃棄物（建設工事に伴って発生した廃棄物等） (予測結果は工事の終了時まで)</p> <table border="1" data-bbox="520 801 1339 1321"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">予測結果</th> <th rowspan="2">累計発生量</th> <th colspan="3">今回報告分(H27.10~H28.9)</th> </tr> <tr> <th>発生量</th> <th>場外搬出量</th> <th>再利用・再資源化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td>t</td> <td>約11,116</td> <td>85,393</td> <td>2,440</td> <td>2,440</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>その他がれき類</td> <td>t</td> <td>約101</td> <td>4,886</td> <td>3,341</td> <td>3,341</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>t</td> <td>約243</td> <td>1,631</td> <td>668</td> <td>668</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック類</td> <td>t</td> <td>約54</td> <td>210</td> <td>130</td> <td>130</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず</td> <td>t</td> <td>約108</td> <td>156</td> <td>86</td> <td>86</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>t</td> <td>約103</td> <td>254</td> <td>206</td> <td>206</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>紙くず</td> <td>t</td> <td>約67</td> <td>114</td> <td>85</td> <td>85</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>繊維くず</td> <td>t</td> <td>約4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他1</td> <td>t</td> <td>-</td> <td>35</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>82%</td> </tr> <tr> <td>その他2</td> <td>t</td> <td>約26</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>汚泥</td> <td>m³</td> <td>12,600</td> <td>16,315</td> <td>779</td> <td>779</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>建設発生土</td> <td>m³</td> <td>約115,691</td> <td>62,681</td> <td>6,185</td> <td>6,185</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>累計発生量は、平成26年5月～平成28年9月までの実績値</p>	種類	単位	予測結果	累計発生量	今回報告分(H27.10~H28.9)			発生量	場外搬出量	再利用・再資源化率	コンクリート塊	t	約11,116	85,393	2,440	2,440	99%	その他がれき類	t	約101	4,886	3,341	3,341	98%	金属くず	t	約243	1,631	668	668	100%	廃プラスチック類	t	約54	210	130	130	85%	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	t	約108	156	86	86	74%	木くず	t	約103	254	206	206	100%	紙くず	t	約67	114	85	85	99%	繊維くず	t	約4	4	2	2	100%	その他1	t	-	35	27	27	82%	その他2	t	約26	1	0	0	-	汚泥	m ³	12,600	16,315	779	779	100%	建設発生土	m ³	約115,691	62,681	6,185	6,185	100%
種類	単位					予測結果	累計発生量	今回報告分(H27.10~H28.9)																																																																																							
		発生量	場外搬出量	再利用・再資源化率																																																																																											
コンクリート塊	t	約11,116	85,393	2,440	2,440	99%																																																																																									
その他がれき類	t	約101	4,886	3,341	3,341	98%																																																																																									
金属くず	t	約243	1,631	668	668	100%																																																																																									
廃プラスチック類	t	約54	210	130	130	85%																																																																																									
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	t	約108	156	86	86	74%																																																																																									
木くず	t	約103	254	206	206	100%																																																																																									
紙くず	t	約67	114	85	85	99%																																																																																									
繊維くず	t	約4	4	2	2	100%																																																																																									
その他1	t	-	35	27	27	82%																																																																																									
その他2	t	約26	1	0	0	-																																																																																									
汚泥	m ³	12,600	16,315	779	779	100%																																																																																									
建設発生土	m ³	約115,691	62,681	6,185	6,185	100%																																																																																									
<p>苦 情 の 有 無</p>	<p>騒音に関する苦情が 2 件あり、工事の音や早朝に発生する音がうるさいという趣旨であり、早朝に関しては、発生源調査を行い調査結果に基づき通勤車両の入場時間変更や作業時間前の荷卸し禁止の徹底などの対策を実施した。工事の音については、工事状況として鉄骨建方に伴う金属打撃音と考えられたため、無駄な打撃音が出ないように注意して作業を行った。なお、それ以降の申出はなかった。</p>																																																																																														

変 更 届

事 項	内 容																																																
事 業 名	豊田南土地区画整理事業																																																
番号・答申日・受理日	1-15-2	S60.5.17	H29.3.31																																														
事 業 の 種 類	土地区画整理事業																																																
規 模	位 置：日野市豊田一～四丁目、東豊田一・二丁目、東平山一・二丁目の一部 施行面積：87.1ha 施 行 者：日野市 計画人口：8,700人 工事期間：平成 2年度～平成 40年度（予定） 事業期間：昭和 61年度～平成 42年度（予定）																																																
変更内容の概略	<p>1 変更理由</p> <p>(1) 地権者との調整の結果、土地利用計画の一部を変更する。</p> <p>(2) 事業の進捗状況を考慮した結果、工事工程、工事期間及び事業期間を変更する。</p> <p>2 主な変更内容</p> <p>(1) 土地利用計画 (単位：㎡)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%;">項 目</th> <th style="width: 20%;">変更後</th> <th style="width: 20%;">変更前</th> <th style="width: 25%;">増減(△)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">公 共 用 地</td> <td>道 路</td> <td style="text-align: center;"><u>220,608</u></td> <td style="text-align: center;">221,073</td> <td style="text-align: center;">△465</td> </tr> <tr> <td>公 園</td> <td style="text-align: center;">35,153</td> <td style="text-align: center;">35,157</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>水 路</td> <td style="text-align: center;">7,846</td> <td style="text-align: center;">7,846</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;"><u>263,611</u></td> <td style="text-align: center;">264,076</td> <td style="text-align: center;">△465</td> </tr> <tr> <td></td> <td>宅 地</td> <td style="text-align: center;"><u>565,373</u></td> <td style="text-align: center;">564,908</td> <td style="text-align: center;">465</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保留地</td> <td style="text-align: center;">42,373</td> <td style="text-align: center;">42,373</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合 計</td> <td style="text-align: center;">871,357</td> <td style="text-align: center;">871,357</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)工事期間及び事業期間</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項 目</th> <th style="width: 35%;">変更後</th> <th style="width: 50%;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事期間</td> <td style="text-align: center;">平成 2年度～平成 40年度</td> <td style="text-align: center;">平成 2年度～平成 30年度</td> </tr> <tr> <td>事業期間</td> <td style="text-align: center;">昭和 61年度～平成 42年度</td> <td style="text-align: center;">昭和 61年度～平成 32年度</td> </tr> </tbody> </table>				項 目	変更後	変更前	増減(△)	公 共 用 地	道 路	<u>220,608</u>	221,073	△465	公 園	35,153	35,157	0	水 路	7,846	7,846	0	計	<u>263,611</u>	264,076	△465		宅 地	<u>565,373</u>	564,908	465		保留地	42,373	42,373	0		合 計	871,357	871,357	0	項 目	変更後	変更前	工事期間	平成 2年度～平成 40年度	平成 2年度～平成 30年度	事業期間	昭和 61年度～平成 42年度	昭和 61年度～平成 32年度
	項 目	変更後	変更前	増減(△)																																													
公 共 用 地	道 路	<u>220,608</u>	221,073	△465																																													
	公 園	35,153	35,157	0																																													
	水 路	7,846	7,846	0																																													
	計	<u>263,611</u>	264,076	△465																																													
	宅 地	<u>565,373</u>	564,908	465																																													
	保留地	42,373	42,373	0																																													
	合 計	871,357	871,357	0																																													
項 目	変更後	変更前																																															
工事期間	平成 2年度～平成 40年度	平成 2年度～平成 30年度																																															
事業期間	昭和 61年度～平成 42年度	昭和 61年度～平成 32年度																																															
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	今回の変更において土地利用計画の一部、工事工程、工事期間等は変わるが、工事の規模等の予測条件に大きな変更はないことから、予測・評価の見直しは行わない。																																																

変 更 届

事 項	内 容											
事 業 名	都市高速鉄道東京臨海新交通臨海線(新橋～竹芝ふ頭間)及び都市計画道路補助313号線建設事業											
番号・答申日・受理日	2-59-2	H2.2.23	H29.3.22									
事 業 の 種 類	軌道の新設及び道路の新設											
規 模	《都市高速鉄道》 延 長：約1.7km 区 間：(起点)港区新橋二丁目 (終点)港区海岸一丁目 型 式：ガイドウェイ・中量軌道輸送システム 工 事 期 間：平成4年度～平成7年度 供 用 開 始：平成7年11月 《都市計画道路》 延 長：約1.2km 区 間：(起点)港区東新橋一丁目 (終点)港区海岸一丁目 車 線：往復4車線 道 路 構 造：平面 工事予定期間：平成12年度～平成29年度											
変更内容の概略	1 変更理由 舗装工事や修景工事を実施するに当たって、鉄道事業者や道路管理者との高低差調整等の協議に時間を要したため工事期間を平成29年度まで延伸する。 2 変更内容 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">項 目</th> <th style="width: 35%;">変更後</th> <th style="width: 35%;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事期間 (道路事業)</td> <td style="text-align: center;">平成4年度 ～平成29年度</td> <td style="text-align: center;">平成4年度 ～平成23年度</td> </tr> <tr> <td>完成予定年度 (道路事業)</td> <td style="text-align: center;">平成29年度</td> <td style="text-align: center;">平成23年度</td> </tr> </tbody> </table>			項 目	変更後	変更前	工事期間 (道路事業)	平成4年度 ～平成29年度	平成4年度 ～平成23年度	完成予定年度 (道路事業)	平成29年度	平成23年度
項 目	変更後	変更前										
工事期間 (道路事業)	平成4年度 ～平成29年度	平成4年度 ～平成23年度										
完成予定年度 (道路事業)	平成29年度	平成23年度										
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	今回の変更において工事期間及び完成予定年度は変わるが、工法・規模等に変更はないため、予測・評価の見直しは行わない。											

変 更 届

事 業 名	内 容								
立川基地跡地昭島地区土地区画整理事業									
番号・答申日・受理日	2-277-2	H23. 10. 26	H29. 3. 24						
事業の種類	土地区画整理事業								
規 模	計 画 地：昭島市福島町、築地町、中神町及び立川市泉町の各一部 施行面積：約 66.1ha （改変面積：約 28.9ha） 事業方式：土地区画整理事業 工事期間：平成 25 年度～平成 29 年度（予定）								
変更内容の概略	<p>1 変更理由 土地利用計画の民間利用（予定地）において、宅地整備工事を行っていたところ、地中障害物（鉋さい、木くず、ガラ等）が確認されたため、これらの処理等を実施するために工事期間を1年間延伸する。</p> <p>2 主な変更内容</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">項 目</th> <th style="width: 25%;">変更後</th> <th style="width: 25%;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事期間</td> <td>平成 25～<u>29</u>年度</td> <td>平成 25～28 年度</td> </tr> </tbody> </table>			項 目	変更後	変更前	工事期間	平成 25～ <u>29</u> 年度	平成 25～28 年度
項 目	変更後	変更前							
工事期間	平成 25～ <u>29</u> 年度	平成 25～28 年度							
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	1月より猛禽類保護対策期間に入ったため、地中障害物が確認された民間利用（予定地）の宅地整備工事については休止している状況である。当該地中障害物の処理方針等、詳細が不明であるため、現時点では予測・評価の見直しは行わないが、処理方針が定まり次第、必要に応じて届出、報告を行う予定である。								

変 更 届

事 項	内 容								
事 業 名	株式会社 村尾組 成木工場採石拡張事業								
番号・答申日・受理日	2-102-2	H5.4.19	H29.3.27						
事 業 の 種 類	土石の採取								
規 模	<p>所 在 地：青梅市成木六丁目1-1 外68 筆</p> <p>事業区域面積：474,809.99m²</p> <p>年間採取量：350,000t</p> <p>採取期間：20年間*</p> <p>総採取岩量：7,000,000t</p> <p>採石方法：露天階段採掘法（ベンチカット工法）</p> <p>生産品目：砕石骨材</p> <p><small>※ 本事業は、平成25年11月、平成26年11月にそれぞれ1年間の期間延長、平成27年11月に一部事業計画の変更及び1年4か月の期間延長の手続きを行ったものである。</small></p>								
変更内容の概略	<p>1 変更理由</p> <p>採石場内で法面の崩落等が発生したため、崩落箇所周辺の森林を伐採するなど、災害防止対策として切羽ベンチ等を再構築し、緑地の回復作業を進めており、引き続き、採石場内の切羽ベンチ等の再構築、新規植栽地の活着確認及び補植等を行うため、事業工程を変更する。</p> <p>2 変更内容</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項目</th> <th style="width: 40%;">変更後</th> <th style="width: 40%;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業期間</td> <td style="text-align: center;">平成29年9月まで</td> <td style="text-align: center;">平成29年3月まで</td> </tr> </tbody> </table>			項目	変更後	変更前	事業期間	平成29年9月まで	平成29年3月まで
項目	変更後	変更前							
事業期間	平成29年9月まで	平成29年3月まで							
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	<p>事業行程（事業期間）の変更のみで、採石用地、採石方法は変更しないため、予測条件に変更はないことから、予測・評価の見直しは行わない。</p>								

変 更 届

事 業 項	内 容											
事 業 名	一般国道16号（昭島市拝島町～福生市熊川町間）拡幅事業											
番号・答申日・受理日	2-154-2	H9.3.3	H29.3.27									
事 業 の 種 類	道路の改築											
規 模	延 長：約 1.5km 区 間：（起点）昭島市拝島町（終点）福生市熊川町 車 線 数：往復 6 車線 道 路 構 造：土工部 約 0.66km、橋梁部 約 0.10 km、掘割部約 0.39 km、 盛土約 0.36 km 工事予定期間：平成 13 年度～平成 29 年度											
変 更 内 容 の 概 略	<p>1 変更理由</p> <p style="text-align: center;">地元住民による交差点計画の見直し要望に伴い関係機関との調整に時間を要したことから、詳細工程の調整を行った結果、工事期間を平成 29 年度まで延伸する。</p> <p>2 変更内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">項 目</th> <th style="width: 35%;">変 更 後</th> <th style="width: 35%;">変 更 前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">工事期間</td> <td style="text-align: center;">平成 13 年度 ～平成 29 年度</td> <td style="text-align: center;">平成 13 年度 ～平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">完成予定年度</td> <td style="text-align: center;">平成 29 年度</td> <td style="text-align: center;">平成 28 年度</td> </tr> </tbody> </table>			項 目	変 更 後	変 更 前	工事期間	平成 13 年度 ～平成 29 年度	平成 13 年度 ～平成 28 年度	完成予定年度	平成 29 年度	平成 28 年度
項 目	変 更 後	変 更 前										
工事期間	平成 13 年度 ～平成 29 年度	平成 13 年度 ～平成 28 年度										
完成予定年度	平成 29 年度	平成 28 年度										
環 境 影 響 評 価 項 目 の 再 評 価 (見 直 し) 結 果	<p>今回の変更において工事期間及び完成予定年度は変わるが、工法・規模等に変更はないため、大気汚染、騒音、振動、植物・動物、景観及び史跡・文化財については予測・評価の見直しは行わない。</p> <p>なお、電波障害については、アナログ放送からデジタル放送に移行したため、予測・評価の見直しを行った。その結果一部の地域において電波障害が生じると予測されたが、本事業に起因する電波障害が発生した時は適切な対策を実施するため評価の結論は変わらない。</p>											

変 更 届

事 業 名	内 容		
事業名	八王子市都市計画道路 3・3・2 号線 (八王子市北野町～南浅川町) 建設事業		
番号・答申日・受理日	2-140-2	H8.11.1	H29.3.27
事業の種類	道路の新設		
規 模	延 長：約 9.6km 区 間：(起点)八王子市北野町 (終点)八王子市南浅川町 車 線 数：往復 4 車線 道 路 構 造：土工部 約 1.6km、橋梁部 約 1.5 km、掘割部約 2.5 km、 トンネル部約 4.0 km 工事予定期間：平成 13 年度～平成 31 年度		
変更内容の概略	1 変更理由 計画路線の中心市街地付近における用地買収に期間を要していることから、工事期間を平成 31 年度まで延伸する。 また、トンネル部のうち館第一トンネル(仮称)は、沿道環境が静穏な住宅地となっていることからトンネル工法の一部を開削工法からシールド工法に変更する。		
	2 変更内容		
	項 目	変更後	変更前
	工事期間	平成 13 年度 ～平成 31 年度	平成 13 年度 ～平成 28 年度
	完成予定年度	平成 31 年度	平成 28 年度
トンネル工法 (館第一トンネル)	開削工法及び シールド工法	開削工法	
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	今回の変更において館第一トンネルについては一部工法が変更となるため、騒音、振動、水質汚濁、地形・地質について予測・評価を行ったが、いずれの項目も変更後の予測結果は変更前と同程度であることから、評価の結論は変わらない。		

変 更 届

事 項	内 容		
事 業 名	宇津木土地区画整理事業		
番号・答申日・受理日	2-106-1	H5.7.15	H29.3.27
事 業 の 種 類	土地区画整理事業		
規 模	位 置：八王子市宇津木、大谷、尾崎、左入の各町の一部 施 行 面 積：約 55.0ha 事 業 期 間：平成6年度～平成39年度（予定）		
変更内容の概略	1 変更理由 土地利用増進のため、地権者と調整した結果、一部区画道路及び歩行者専用道路の新設を行う。また、事業進捗を考慮した施行計画の見直しにより、事業工程の変更を行う。		
	2 主な変更内容		
		変 更 後	変 更 前
	区 画 道 路 の 新 設	区画道路（6m）一本 歩行者専用道路(4.5m)一本 の追加	—
事 業 工 程	幹線道路築造工事： 平成11年度～平成35年度 公園築造工事： 平成20年度及び平成34年度 ～平成39年度	幹線道路築造工事： 平成11年度～平成33年度 公園築造工事： 平成26年度～平成28年度	
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	今回の変更において、区画道路の新設及び事業工程の変更があるが、予測条件の変更はないため、予測・評価の見直しは行わない。		

変 更 届

事 項	内 容		
事 業 名	都宮桐ヶ丘団地（第4期・第5期）建替事業		
番号・答申日・受理日	2-296-2	H24.10.31	H29.3.31
事業の種類	住宅団地の新設		
規 模	計 画 地： 北区桐ヶ丘一、二丁目、赤羽北三丁目、赤羽台三丁目 及び赤羽台四丁目の一部 計画区域面積： 約 45.4ha 住宅建設戸数： 23 棟、約 2,000 戸 最 高 高 さ： G.L. + 約 41m 駐 車 場 台 数： 約 200 台（第4期・第5期のみ） 工事予定期間： 平成 25 年度～平成 33 年度（予定） 供用開始予定： 平成 28 年度～平成 33 年度（予定）		
変更内容の概略	1 変更の理由 基本設計の実施に伴い、建物配置、形状及び階数を変更する。 また、土壌汚染対策の実施などにより工事完了時期が変更となり、 それに伴い以降の街区の工事着手時期及び供用開始時期を変更する。		
	2 変更の概要		
	項 目	変更後	変更前
	建築計画 計画建築物の配置 形状及び階数	GW05 街区 西 9F、東 9F GE02 街区 北 9F(1 棟) 中 8F(1 棟) 南 7F(1 棟)	GW05 街区 西 8F、東 7F GE02 街区 北 7～8F(2 棟) 中 9F(1 棟) 南 7F(1 棟)
施工計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除却工事着手時期 ・ 第4期工事工程（工事完了時期） ・ 第5期工事工程（工事着手時期） 		
供用の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4期供用開始時期 ・ 第5期供用開始時期 		
環境影響評価項目の再評価（見直し）結果	環境影響評価項目のうち、大気汚染、騒音・振動、日影、電波障害、景観及び廃棄物について予測・評価の見直しを行った。大気汚染以外の項目については、変更後の予測結果は変更前と同程度で、評価の結論は変わらない。大気汚染については、予測結果が変更前に比べ増加し、また NO ₂ については変更前と同様、評価の指標とした環境基準を上回るため、最新の排出ガス対策型建設機械の使用などに努め、より一層の排出削減を図ることから、評価の結論は変わらない。		

変 更 届

事 項	内 容		
事業名	白金一丁目東部北地区第一種市街地再開発事業		
番号・答申日・受理日	2-288-2	H25.4.26	H29.4.11
事業の種類	高層建築物の新築		
規 模	所在地：港区白金一丁目 事業区域面積：約 17,000 m ² 延床面積：約 134,492 m ² 最高高さ：約 156m 工事予定期間：平成 29 年度～平成 33 年度 供用時期：平成 33 年度（予定）		
変更内容の概略	1 変更理由 事業計画の進捗に伴い、より良い再開発事業となることを目的に、施設配置計画、建築計画等について変更を行う。		
	2 主な変更内容		
	項 目	変 更 後	変 更 前
	延 べ 面 積	約 134,492 m ²	約 133,700 m ²
	階 数	地上 45 階、地下 1 階	地上 43 階、地下 2 階
	住 宅 戸 数	約 1,241 戸	約 1,200 戸
	駐 車 場 計 画	約 444 台	約 600 台
	工 事 予 定 期 間 変 更	平成 29 年度～平成 33 年度	平成 26 年度～平成 30 年度
供 用 時 期	平成 33 年度（予定）	平成 31 年度（予定）	
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	環境影響評価項目のうち、大気汚染、日影、電波障害、風環境、景観、廃棄物、温室効果ガスについて、予測・評価の見直しを行ったが、いずれの項目も変更後の予測結果は変更前と同程度であることから、評価の結論は変わらない。		

変 更 届

事 業 名	内 容		
事業名	新可燃ごみ処理施設整備事業		
番号・答申日・受理日	2-317-2	H28. 6. 24	H29. 4. 14
事業の種類	廃棄物処理施設の設置		
規 模	所 在 地：日野市石田一丁目 210 番地 2 敷 地 面 積：約 2.9ha 処 理 能 力：約 228 トン／日 処 理 方 式：全連続燃焼式（ストーカ式焼却炉） 工事着手年度：平成 29 年度（予定） 供用開始年度：平成 32 年度（予定）		
変更内容の概略	1 変更の理由 事業者が決定し詳細な工事工程を見直した結果、本体工事の開始前に、準備工事（出入口橋梁工事等）を実施することになったため、工事工程の変更及び工事期間の延長をする。		
	2 変更の内容 以下に示すとおり、事業計画を変更する。		
	変更の内容	変更後	変更前
	工事工程	準備工事、土木工事、建築工事、機械設備工事、外構工事	土木工事、建築工事、機械設備工事、外構工事
工事期間	35 か月	31 か月	
環境影響評価項目の再評価（見直し）結果	工事工程及び工事期間の変更に伴い建設機械及び工事車両のピーク台数は変わらないことから予測・評価の見直しは行わない。		